

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課長 桑本	電話番号	0852-22-5167
----------	---------	------	--------------

事務事業の名称	農林水産振興がんばる地域応援総合事業		
目的	(1) 対象	市町村、流域林業活性化センター、森林組合等の林業・木材産業関係者	
	(2) 意図	原木の増産体制を強化するとともに、県産木材の加工体制強化、販路の拡大など木材需要を拡大する取り組みを実施するとともに伐採跡地の再造林を推進することにより、林業・木材産業関係者の生産活動を活発にする。	
事業概要	○地域プロジェクト活動への支援：林業・木材産業者の合意形成を図るため、協議会、研修会等の取り組みに支援する ○木材生産活動への支援：原木の生産体制を強化するため、林業事業体等が行う技術者育成・確保の取り組みなどを支援する ○需要拡大活動への支援：木材需要を拡大するため、林業・木材産業関係者が行う高品質な製材品づくり、販路拡大等の取り組みに支援する ○低コスト造林への支援：伐採跡地の確実な再造林のため、造林コストの低コスト化や苗木生産拡大の取り組みに支援する		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	森林経営計画に基づく原木生産量	目標値	166.0	191.0	214.0	239.0	Km <sup>3</sup>
	式・定義	森林経営計画に基づいて生産された原木生産量	実績値	164.0				
			達成率	-	-	-	-	
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	67,457	65,000
うち一般財源 (千円)	67,457	65,000

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○平成27年の木材生産量は、475千立方メートルであり、近年、増加を続けており、原木自給率も上昇している  
 ○更なる原木増産に向け、人材育成のメニューの見直しを行ったほか、新たに苗木生産の増産や再造林の低コスト化対策についてメニューに加えた。  
 ○平成28年度は、成果目標を達成するため、

- ・技術者の養成や林業機械の導入
- ・間伐材搬出を支援（3万立方メートル）
- ・県産木材を使用した住宅の展示、宣伝活動を支援（42棟）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○平成27年の木材生産量は、475千立方メートルであり、平成23年の314千立方メートルに比べ約50%増加した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」  
なし

②困っている状況が発生している「原因」  
なし

③原因を解消するための「課題」  
なし

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

本事業により、「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画」第3期戦略プランを推進する。実施にあたっては、国庫補助事業等の既存事業との連携に配慮しつつ次の事項を推進

- ・原木の生産量を増加させるため、間伐対策に加え、人材育成や高性能林業機械の導入など主伐対策の取り組みを支援
- ・高品質な木材生産の加工体制を強化し、公共部門や民間部門での製材品の安定的な需要を確保するとともに、関係業界と連携して、県外の大きな需要に向けた販路拡大に取り組む。
- ・再造林を推進するため、苗木の増産や低コスト造林推進のための取り組みを支援

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--